

東京都子供・若者支援協議会における子供・若者計画に関する意見

(支援機関から)

- 社会福祉法人やまて福祉会
 - ・ 最近の若者は、不安や孤独を抱え、他者の言動をネガティブに捉える傾向がある。
 - ・ 若者のSOSを取りこぼさないよう、気軽に話せる人や信頼できる人に出会えるような安心できる場所、相談できる場所が必要
 - ・ 支援機関相互の連携と行政の庁内連携が円滑になるよう、若ナビ α も地域のネットワークづくりに寄与させていただきたい。また、各支援機関からの連絡や相談も積極的にお受けしたい。

- 発達障害者支援センター
 - ・ 所属のない人たち（離職を繰り返している人、ひきこもり、不登校など）の居場所や相談できる場所が必要
 - ・ ライフサイクルを通して相談を次のところにつなげていくという縦の連携が重要
 - ・ 一人一人に対して、どの様に接し、どのような支援や教育が必要かということ診断するにあたっては、アセスメントが非常に重要

- NPO法人青少年自立援助センター
 - ・ ひきこもりの問題は、8050問題など高年齢の部分が注目されているが、子供・若者の支援の中において、長期化しないような施策が必要
 - ・ 海外にルーツがある子供の支援策についても計画に入れ込んでほしい。

- 厚生労働省東京労働局
 - ・ 若者への就労支援については、きめ細かく行っている（新卒応援ハローワーク設置、学卒ジョブサポーターの配置等）。また、正社員雇用化に向けては、個別担当制などの支援を実施
 - ・ 来年度から、就職氷河期世代に対する支援ということでは、35～54歳以下を対象にハローワークが支援し、34歳以下の若者はわかものハローワークで支援（課題ごとに支援）

- NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会
 - ・ ひきこもりは高校生年齢からの支援の充実が必要
 - ・ 発達障害等について、10代までは児童精神科医が関わっているが、成人になると医療につながる部分の橋渡しが難しいという課題がある。

- 公益財団法人東京しごと財団
 - ・ 就業支援に踏み出せない若者の保護者向けのプログラムを実施しており、若者本人への支援だけではなく、保護者への支援（子供への関わりや保護者自身の意識改革など）が重要であることを実感
 - ・ 就労支援といっても、背景には様々な課題があり、一機関では支援しきれないので、連携が重要